2021年4月20日　JR東日本　村岡

人生100年時代に向けてどのような働き方や仕事のシーンを創出すべきか

企業人としての活動（大きな経済、大きなベクトル、大きなエリア）、個人としての活動（小さな経済、小さないくつかのベクトル、近隣）をパラレルに日常の中に融合していく。（あるいは目標を重ね合わせる、折り合いをつけていく）

※小さな経済：自らクライアント、プロデューサー、マネージャーとなるような地域サロンの活動

※事例「チームファンタジスタ」JR東日本の社員のコミュニティ、個人の想いを起点に公私、組織、既存の枠組みをこえ、自らのアイディア

を実現することを「遊ぶように働き、働くように遊ぶ」と呼んでいる。実現したいことを、会社の枠組みで実現するか、個人の枠組みで実

現するか、選択して取組んでいる。社会＝会社＝個人をつなぎとめる集合体。

※対義語として、退職して大学教授、起業など別の大きなベクトルに乗り換え。

１）現在のライフシーンを取り巻く状況

・コロナ禍により、働く場所・時間を個人がフレキシブルに設定（在宅、シェアオフィス、サテライトオフィス）

・副業・兼業、NPOやプロボノ、ボランティアなど多様な形での社会参画

・人口が減少し定常型社会に向かう中で、都市アセット、既存ストックの活用、シェアの概念、再定義

２）人生100年時代に想定される変化

・定年後の活動が成熟社会に価値つくる　あるいは生涯現役世代が成熟社会に価値をつくる

・近隣コミュニティへの参画（ウォーキングディスタンス）、近隣コミュニティとの協働、地元での｢小さな経済｣を回す

・「ワーク」と「ライフ」のシームレス化

・社会基盤の整備は選択と集中、ストック活用の流れ

３)新しいライフシーンはどのような豊かさを私たちの暮らしや社会にもたらすか

・企業人として大きな経済や社会基盤への貢献

・個人として小さな経済を自分で回し、個人としての市場価値、ブランド価値

・相乗効果により様々な活動や社会の質を上げることに貢献

1. ライフシーンの変化＝シフトの取り入れ方

・あり合わせの道具や材料を使い倒したり流用しながら必要なものを創造的につくりだす（ブリコラージュ）

・コンテンツ、場、人、お金、ネットワーク

1. 着目する都市・インフラ

・駅前広場、公園、空き店舗（空き家）、道路、路地空間

・椅子

・自然

※事例：根津にあるアイソメという地域サロン

まとめ

都市・インフラのうち、

駅前広場や公園とそこに面する空き店舗や道路、路地空間

に着目して人生100年時代のデザインを考える。

※ヒトと情報が集まるところに、リアルとバーチャルの共存による相乗効果を期待したい

※商業的価値の高い一等地を、新たな価値創造のために開放して、質の高い成熟社会を目指したい

※駅まちデザイン検討会にて都市アセットという概念で境界を越えた議論がされている　小さな事例で具現化ができないか